

＜県研究主題＞

楽しい音楽活動を通して、音楽を愛好する心情や感性、音楽的な能力の基礎を育成する学習指導と評価の工夫・改善

提案1

提案者 宮川 礼子（県西地区）

＜研究主題＞

一人ひとりが思いをもち、共に表現できることを楽しむ音楽活動 ～合奏を通して～

1 提案内容

児童が思いをもつこと、その思いを表現するための技能を身につけることに重点をおいた、2年生の授業実践。学び合う中で表現力を高め、そして共に表現することを楽しむ活動をめざした。

(1) 一人ひとりが思いをもつための手立て

① イメージ作り

児童が主体的に学習するために、具体的なイメージをもたせる。言葉だけでなく、絵でも表現して掲示し、学習の途中でもふり返られるように工夫した。

② 楽器選び

楽曲から感じたことを自分なりに表現するために、楽曲に合う楽器を選ぶ活動を取り入れた。

③ 楽譜の工夫

児童の思いにあった楽器選びができるよう、固定観念の影響に配慮し記号などをなくした楽譜を用意した。合奏への意欲を持続させるために、段階をおって楽譜を提示した。

(2) 共に表現することを楽しむための手立て

① 伝え合う場の設定

自分の感じたことや考えたことを伝え合うために、グループ活動を取り入れた。話し合いを充実させるために、ワークシートで考えをまとめさせ話し合いの時間を十分に確保した。

② 視聴覚機器の活用

自分たちの合奏を客観視するために、演奏を録画して見るようにした。よりよい表現をめざすと共に、自分たちのよさなどにも気づくことができると考えた。

(3) 実践

① 題材名 「みんなで合奏しよう」

② 題材の目標 歌詞の内容・曲想に興味・関心をもち、思いにあった楽器を選んで工夫したり、友だちと合わせたりして演奏する。

③ 教材 「アンダルコの歌」

④ 授業の実際

【第1次】言葉や絵で楽曲から感じたことを表現し、楽器の奏法に気をつけて演奏する。

第1時：楽曲の感じから情景を想像し、思いを伝え合う。

第2時：主旋律の練習

【第2次】曲想にふさわしい表現を工夫し、思いに合う楽器を選んで演奏する。

第3時：副次的な旋律を重ねる。

第4時：副次的な旋律とリズム伴奏を重ねる。

第5・6時：合奏練習・録画を見て気づいたことを合奏に生かす。

第7時：合奏の演奏会

(4) 成果と課題

・雪遊びの体験などから具体的なイメージを持たせたことで、自分の思いをもって合奏しようとする

る姿勢につながり、演奏技能も高めることができた。

- ・グループ活動を取り入れたことによって、個々が責任をもって演奏したり合奏する喜びを感じたりすることができ、集団で表現する楽しさを味わわせることができた。
- ・授業の中で2回にわたり行った録画は、主観と客観のズレを修正するために非常に有効な手段で、見直したいところを繰り返し再生できたことも合奏の改善につながり、さらには自分たちの成長を感じ、できる楽しさや喜びにつながった。
- ・楽曲への思いを演奏で表現するために、楽器の音色に着目して選択させたが、もっと音色やリズムの生み出すよさを感じるような指導の工夫が必要だったのではないか。
- ・グループ活動のめあてが、表現したい様子と技能についてが混在してしまっていたので、表現したい様子を中心としためあてにさせた方が、さらに表現が深まったのではないか。
- ・児童の思いを表現させるためには、指導計画を見直し練習時間をさらに確保する必要があったのではないか。

2 協議内容

- ・グループ内の話し合いで折り合いがつかないときは、担任が入り支援し解決した。録画を見ながら、児童同士で解決した場面も見られた。
- ・動画の確認作業は音楽室隣の空き教室を使い、ローテーション表を示して行った。話し合いの時間が長くなるよう配慮した。
- ・楽曲の様子を絵で表現できたのが、イメージをもたせるために効果的であったので、参考にしたい。
- ・グループ内での楽器の変更については、楽曲に合わなくとも児童の思いを生かすことを優先した。自分たちの思いがどう表現できているか、どうたたけば思いが伝わるかなどを大切にしたい。
- ・楽器の扱いについては、経験のある物を使用させた。リズム遊びなど遊びの中で使用させることも、よい経験になる。

3 助言 『音楽の授業を心待ちにする子どもたちを育てるために』

- ・表現の指導で大切なことは次の2点
 - ① 思いや願い・意図をもつこと…子ども主体
 - ② 思いを表現するための技能 …教師主体
- ・以上の2点を、バランスよく指導していくこと
 - ① 楽曲の気分をどれだけ味わわせられるか。
イメージのもたせ方、曲との出会わせ方をどう仕組んでいくか。
大雪の体験がタイムリーで、イメージを広げスムーズに気持ちももてた。また、絵を描いたことでそれを共有でき、大変効果的だった。そして常に立ち返り交流できたこともよかった。
 - ② 楽器選びについて
5, 6年生では、曲想に合った楽器を選ぶことが必要になるため、低学年での体験が大切になってくる。今回、粉雪の様子をタンブリンで表現するのに、弱い音で揺らしながら行ったことは、その児童に思いがあったからこそできた表現であった。
- ・共通事項について
バランスのよい指導をするために、言語活動の充実が大切。感じ取ったことや曲の特徴などが、共通事項の言葉になっているか。教師自らが常に用いて、価値づけていく積み重ねが必要。

4 まとめ

○音楽が自分にとって価値のあるもの=意味のあるものにしていく必要がある。

- ・音楽はできる喜び 楽しいと思える気持ちが大切。
- ・技能だけ単に教えるのではなく、この表現をするにはこういう風にやるなどの指導も必要。

<研究主題>

音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的に活動する子ども ～豊かな表現を支える確かな学びをめざして～

1 提案内容

児童が音楽のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせることは、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする活動につながると考えた。そこで一人ひとりの児童が、思考・判断し、自らの創造性を発揮し、主体的な音楽学習を行われることをめざした。

(1) 川崎市立小学校教育研究会について

①冊子作成について

毎年、各教科等の指導計画の作成、学習指導の在り方などに関する研究を行い、実践事例冊子を作成し、CD-R と共に各学校に配布している。生きる力を育む学習指導と評価の工夫改善について全市で共通理解を深めることに役立っている。

川崎市小学校音楽教育研究会では、児童が題材を通して音楽のよさや美しさを感じ取るとともに、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力を育てたいと考え研究を進めている。

②冊子の内容について

- ・教師の発問や子どもの反応などが具体的に示している。
- ・板書や楽器の扱い方など実際の指導の際の役に立つことが載っている。
- ・評価が具体的に示している。
- ・冊子に掲載した実践は、経験の浅い教員や専科でない教員にも使いやすい内容となっている。

(2) 3年生の実践「せんりつのとくちょうをかんじとろう」

①題材目標について

- ・旋律の音の動きやリズムの特徴を感じ取りながら聴いたり、歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫して思いや意図をもって演奏したりする感性を高める。
- ・旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現で演奏する能力を育てる。

②題材を通して身に付けさせたい力を明確にし、題材に適した教材を選択する。

- ・鑑賞「メヌエット」、歌唱「バードウォッチング」、歌唱・器楽「うさぎ」、器楽「ゆかいな木琴」を選択。この題材では、旋律やリズムに着目し、その特徴を感じ取ったり、それによって生まれる曲想を捉えたりする。題材目標を実現するために必要な教材を選んで題材を構成する。複数の活動を組み合わせたり、表現と鑑賞の関連を図ったりすることが必要になる。今回はこの4曲を選んで構成した。
- ・題材を構成する際に、〔共通事項〕が各活動の「つなぎ役」となる。今回の4曲をつなぐ〔共通事項〕は主に旋律とリズムとする。

③活動の実際（メヌエットの場合）

- メヌエットを通して聴く。→感じたことを発表する。
- 体を動かしながらメヌエットを聴く。→指揮のまねをしたり、ヴァイオリンの演奏をまねたりしながら聴く。
- はじめの部分はを聴く。→3つに分かれていることを気づかせる。はじめの部分はで感じたことを近くの人と話し合う。
- はじめの部分はからなかの部分なを聴く。→話し合いと発表。
- なかの部分なからおわりわの部分わを聴く。→話し合いと発表。
- メヌエットを通して聴き、曲の紹介とお気に入りの部分をカードに書く。

④見取りと評価 活動の様子の観察・発言の内容・学習カードの記述内容など様々な方法で見取る。

2 協議内容

- 題材学習の良さが伝わる内容であった。「バードウォッチング」から「うさぎ」への移り変わりでは曲想が変わる。日本的な旋律であることを捉えることが大切。曲の山を意識させ、扱う曲が変わっても指導すべき視点を明確に捉えることが大切である。
- 実践事例冊子に掲載されている指導計画は、指導のポイントや板書例なども示されていて、若い教員や音楽経験の少ない教員への指導の手引きとして、授業実践にいかせるものとなっている。授業づくりに活用することで、ねらいが達成できる。
- 板書が音楽の要素ごとにまとめられている。イメージで鑑賞させるか要素で学習するかという問題がある。鑑賞1回目は情景やイメージはたくさん出させた。どのような音楽なのかを考える際には、旋律やリズムなど要素ごとにわけて考えることも大切である。
- 「バードウォッチング」は歌詞が入っている曲なので、音楽の要素だけでなく情景やイメージが大切になってくる。子どもたちの様々な解釈を大切にしたい。
- 器楽合奏は完成度も求められる。奏法もしっかり指導しなければならない。
- 評価をしっかりするためにも、活動をたくさんさせたい。ワークシートもよいが音楽に関する言葉を知っているとワークシートもなかなか書けない。音楽的な言葉を低学年から少しずつでも使っていく必要がある。
- 専科ではない地区の場合、先生が変わってしまうたびに指導の方法が変わってしまう実態がある。川崎の冊子のようなものを作って全職員が共通の認識を持って指導していく必要がある。
- 思いを表現するためにも技能の習得が必要。歌詞から情景をイメージし演奏と結びつけるのは低学年では難しい。低学年では音遊びの時間を多く設け、音をたくさん経験させていくことが大切。また鑑賞とリンクさせ、共通事項を感じ取らせる指導が大切になってくる。
- 何をねらうか、何を身に付けさせたいかを、ねらいを明確にして授業をすることが大切。
- 思いや意図をもって評価するのか。それとも、それが技能として表現できた時に評価するのか。→技能の積み重ねで思いや意図を表現できるのでは。

3 助言

- 川崎では約3700人の教員がいる。それぞれが各教科の研究会に参加している。230人ほどが音楽研究会に参加している。各地区4～5人が常任委員会として活動しており、冊子は常任委員会で作っている。常任委員は自分の学校の実践を持ち寄り吟味しながら作っている。初任や音楽の苦手な教員にも見られるように作っている。また音楽の指導で活用して欲しいものを掲載している。「1人の100歩より100人の1歩」というイメージで冊子作りを行った。
- 評価する材料を知らなければ評価することはできない。感性を評価することはできないので、教えたことをどれだけ身につけたかを評価する。
- 音楽を学力として認識するには評価は避けられない。
- 共通事項は教えるものではなく、活動の中で感じさせることが大切。
- 感じたことを知性と融合させることが学習であり学びである。
- 算数はステップ型の体系化された学びであるのに対して、音楽はスパイラル型の学びである。6年間(9年間)を通して教える内容にもれがでないようにしなければならない。
- 題材を通して貫いている音楽的な学習の価値・指導のねらいを認識することが大切である。

4 まとめ

- 見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視
 - ・ 振り返る活動が見通す活動に生きるように計画する。
 - ・ 学習のモデル、約束事や手順をわかりやすく示し、教師の適切な価値付けをおりこむ。
- 「表現領域」、「鑑賞領域」、「我が国の音楽の指導」、「子ども同士の共同的な取り組みの充実」、これらにおいて、義務教育9年間を見通した指導の充実が必要。